

2025 年度 講義概要

科目名	基礎看護学方法論Ⅵ (与薬)	単位数	1	時間数	30	開講時期	2 学年・前期	担当	専任教員 (看護師)
目的	安全・安楽に与薬するための技術を学ぶ。								
目標	1. 与薬に関する基礎知識が理解できる。 2. 与薬の方法の特性を理解し、安全・安楽に与薬する技術を習得できる。								
授業計画・内容	内容						方法		
	1. 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術 1) 与薬とは 2) 薬物療法と看護 3) 与薬のための基礎知識 4) 与薬のための援助技術 5) 注射のための援助技術 6) 与薬における安全管理 7) 輸血のための援助技術と安全管理						演習：経口薬の投与 経皮・外用薬の投与 坐薬の投与 皮下注射 筋肉内注射 静脈路確保・点滴静脈内注射 点滴静脈内注射の管理 薬剤等の管理 輸血の管理 針刺し事故の防止・事故後の対応 患者の誤薬防止策の実施		
評価方法	授業参加状況、課題、筆記試験								
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院								
参考書	視聴覚教材；ナーシングスキル								

2025 年度 講義概要

科目名	臨床判断の実践	単位数	1	時間数	15	開講時期	2 学年・後期	担当	専任教員 (看護師)
目的	既習の知識・技術・態度を活かし、場面に応じた臨床判断の基礎的能力を養う。								
目標	1. 健康障害を有する対象者のフィジカルアセスメントができる。 2. 場面に応じた観察・判断・対応・評価ができる。								
授業計画・内容	内容				方法				
	1. 臨床判断 気づくトレーニング 1) 様々な場面における「気づき」について考える (1) 日常生活行動場面 (2) 臨地実習での場面 2. 健康障害を有する対象者への看護援助 1) 場面に応じたフィジカルアセスメントの実際 (1) 症状を訴える対象者のアセスメント (2) 解釈を裏付けしていくためのフォーカスアセスメント (3) アセスメントに基づいた看護実践 2) 事例を用いた臨床判断の実際 (1) 症状別事例について学習 (2) 症状を訴える対象者への対応（ロールプレイング） (3) デブリーフィング (4) グループで状況に応じた判断について評価 (5) 各事例の臨床判断についての学びを共有する 3) 自身の事例に基づいた場面の振り返り				紙面事例でのワーク グループワーク 演習：臨床指導者と共に シミュレーション				
評価方法	授業参加状況、課題、レポート								
テキスト	看護が見える④ 看護過程の展開 MEDIC MEDIA								
参考書	系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版 学研								

2025 年度 講義概要

[illegible]

2025 年度 講義概要

[illegible]

2025 年度 講義概要

[illegible]

2025 年度 講義概要講義概要

[illegible]

2025 年度 講義概要

[illegible]

2025 年度 講義概要

[illegible]

[illegible]

科目名	母性看護学方法論Ⅱ (ハイリスクな周産期の看護)	単位数	1	時間数	30	開講時期	2 学年・後期	担当	済生会職員 (助産師・看護師)
目的	ハイリスクな状況にある周産期の対象者の看護を学ぶ。 女性に起こりやすい生殖器疾患と看護について学ぶ。								
目標	1. 妊娠・分娩・産褥期の異常について理解できる。 2. 合併症のある妊産褥婦の看護を理解できる。 3. 新生児に起こりやすい異常について理解できる。 4. 女性生殖器の疾患と看護について理解できる。								
授業計画・内容	内容						方法		担当（時間）
	1. ハイリスク妊娠 1) 妊娠の異常 (ハイリスク妊娠、感染症、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、多胎妊婦、流早産、子宮外妊娠、妊娠糖尿病、前置胎盤) 2) 異常のある妊婦の看護 2. 分娩期における異常 1) 異常分娩 (娩出力異常、胎児ならびに胎児付属物の異常、帝王切開分娩人工誘発分娩) 2) 異常のある産婦の看護 3. 異常産褥 1) 産褥にみられる異常 (産褥熱、子宮復古不全、分娩損傷) 2) 異常状態にある褥婦の看護 4. ハイリスク新生児 1) 新生児にみられる異常 (新生児仮死、分娩損傷、低出生体重児、高ビリルビン血症、低血糖、呼吸障害) 2) 新生児における異常に対する看護						講義		済生会職員 (助産師) (20 時間)
	5. 女性生殖器に障害のある患者の看護 1) 女性のライフステージ各期に起こりやすい健康障害 (1) 子宮内膜症、子宮筋腫、更年期障害、不妊症患者の看護 ①医療の動向と看護 ②女性生殖器疾患患者の看護 (2) 子宮がん患者の看護 ①主な症状 ②主な検査とその看護 ③治療に伴う看護 (手術療法、ホルモン療法、生活指導、心理的支援)						演習 グループワーク		済生会職員 (看護師) (10 時間)
評価方法	授業参加状況、課題、筆記試験								
テキスト	系看	専門分野Ⅱ	母性看護学（1）母性看護学概論	医学書院					
	系看	専門分野Ⅱ	母性看護学（2）母性看護学各論	医学書院					
	系看	専門分野Ⅱ	成人看護学 { 9 } 女性生殖器	医学書院					
参考書	母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版								

2025 年度 講義概要

科目名	精神障害と治療	単位数	1	時間数	15	開講時期	2 学年・前期	担当	外部講師 (看護師)
目的	精神疾患に関する基礎的知識を学び、精神症状と治療法について学ぶ。								
目標	1. 様々な精神疾患と精神症状が理解できる。 2. 精神科における様々な治療方法が理解できる。								
授業計画・内容	内容								
	1. 精神症状論と状態像 1) 様々な精神症状 2) 統合失調症 3) 気分障害 4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 5) 摂食障害 6) パーソナリティ障害 7) 薬物・アルコール依存症 8) 神経発達障害 2. 精神障害の診断と分類 1) 診断と疾病分類（DSM と ICD の分類） 3. 精神科における治療 1) 薬物療法・電気けいれん療法 2) 精神療法 3) 環境療法・社会療法								
評価方法	授業参加状況、筆記試験								
テキスト	系看 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院								
参考書									

科目名	医療安全の基礎	単位数	1	時間数	15	開講時期	2 学年・前期	担当	済生会職員 (看護師)
目的	医療事故を未然に防ぐための倫理観を養い、安全確保に向けた取り組みについて学ぶ。								
目標	1. 医療事故の概念を理解し、医療システムの中の危険要因を知り、医療安全の基礎的知識を構造的に理解できる。 2. インシデント分析と事故予防対策への取り組みが理解できる。								
授業計画・内容	内容								方法
	1. 医療安全を学ぶことの大切さ 1) 人はなぜ間違いをおかすのか 2) 医療安全を学ぶことの意義 3) 看護師の責任の重さと安全努力の責務 2. 事故防止の考え方 1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方 3. 診療の補助の事故防止 1) 注射業務と事故防止 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの事故防止 3) 輸血業務と事故防止 4) 内服業務と事故防止 4. 療養上の世話の事故防止 5. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 1) 業務領域をこえて共通する患者間違い 2) 間違いを誘発する負荷状況 6. 組織的な安全管理体制への取り組み 1) 組織としての医療安全対策 2) システムとしての事故防止の具体例 3) 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応 個人としての取り組み ・リスク感性を磨く ・KYT 7. 医療安全対策の国内外の潮流								転倒・転落アセスメント
評価方法	授業参加状況、課題、筆記試験								
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 「医療安全」 看護の統合と実践 2 医学書院								
参考書									

科目名	基礎看護学実習Ⅲ	単位数	2	時間数	90	開講時期	2 学年・前期	担当	専任教員 (看護師)
目的	受け持ち患者への看護過程の展開を通して、対象者に応じた看護の実際を学ぶ。								
目標	1. 対象者と相互関係を築くことができる。 2. 受け持ち患者との関わりを通して、患者を総合的に理解できる。 3. 看護過程を用いて、日常生活援助を実践できる。								
授業計画・内容	内容								
	1. 実習期間：10 日間 2. 実習施設：済生会滋賀県病院、済生会守山市民病院 3. 実習方法 1) 病棟オリエンテーションを受け、実習病棟の概要を知る。 2) 回復期の患者を 1 名受け持ち、看護問題を明確にし、看護過程を展開する。 (1) 病棟の看護計画に基づき看護援助を行い、日々の実践記録を使って振り返る。 (2) 得た情報をアセスメントしながら、対象者の全体像を把握し、問題を明確にする。 (3) 明確化した看護問題の計画を立案する。 (4) 立案した計画に基づいて看護実践し、評価する。 3) 受け持ち患者との関わりをプロセスレコードで振り返る。 4) カンファレンスを行い、各自がその日の役割を認識し、効果的な討議のための企画・運営を行う。 5) 各実習病棟で、経験可能な看護技術を見学・実施する。								

詳細は実習要項参照

科目名	急性期・回復期看護実習	単位数	2	時間数	90	開講時期	2 学年・後期	担当	専任教員 (看護師)
目的	急性期・回復期にある対象者の特徴を理解し、回復にむけ治療を受ける対象者への看護の実際を学ぶ。								
目標	1. 急性期・回復期にある対象者の健康障害と治療が及ぼす影響を理解できる。 2. 治療を必要とする患者の日々の状態を臨床判断しながら、看護の展開ができる。 3. 受け持ち患者の回復過程における問題を捉え、多職種との連携や必要な支援について考察できる。 4. 治療のために実施される医療処置（輸液管理等）を看護師とともに実施できる。								
授業計画・内容	1. 実習期間：10 日間 2. 実習施設：済生会滋賀県病院（一般病棟） 3. 受け持ちの対象：治療が必要な患者を 1 名受け持つ。 4. 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の看護を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の状態変化を観察し、助言を受けながら臨床判断する。 ・患者に行われている治療についてアセスメントし、必要な援助を実施する。 ・患者に関わる多職種の役割について考える 2) リフレクションを行う。 3) 受け持ち患者との関わりをプロセスレコードで振り返る。 4) 看護技術到達度表の未経験の技術を明らかにし、技術の経験ができるよう計画的に行動する。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療処置を学習し、看護師とともに実施する。 5) カンファレンスを行う。 								

詳細は実習要項参照

